

平成三十年度入学者選抜試験問題（前期日程）

国語（解答例）

一

問1 ①偉業 ②テンプ ③ヒツジョウ ④普遍的 ⑤代替

問2 将棋や囲碁やチェスのようなゲームで勝利する能力

問3 ①そもそもはどちらも人間のする行為であるはずのことだが、ここではAI（人工知能）の行為になっていることに対する批評性を示すために「」を付けた。

②・会話文のとき

・他の文章などを引用するとき（※ 文章のなかで「」が用いられる場合が書かれていれば可）

問4 今までは人間がこの自然や世界の外から技術の力を使って、自然を管理し、社会を便利にしてきたのだが、今日では科学・技術が働きかける、もしくは分析する対象が人間自身という段階になった。

（※ 「根本的」という問いに答えられていれば可）

問5 近代社会の「進歩の思想」は、科学や技術が発展すればほぼ自動的に人間の幸福が高まるという前提にたっていたが、現代の先端技術は、こちらに人間という確たる「主体」があつてそれが「客体」としての対象に働きかけるといふ近代の合理的科学の前提を大きく逸脱し、核融合技術の例にみられるように人間が「悪魔と取引」したり、人間が技術に取り込まれることもあり、先端技術を便利に使えば人間の幸福が高まるとはいえなくなっているから。

（※ 「近代社会の「進歩の思想」とは何か、筆者はなぜそれが崩壊すると考えているのかということについて、先端技術の発展が、人間という確たる主体を自明の前提とさせなくなったこととの関係で書かれていれば、可）

問 6 ①大変立派な人物である。 ②学問は格別優れていたが ⑤任官がかなわず嘆いていたころ

問 7 a 意志の助動詞「む」終止形 b 打消の助動詞「ず」已然形

問 8 匡衡は学問ばかりしていて琴のたしなみはないだろうと考え、匡衡が琴が弾けなくて困る様をからかい、笑ってやろうと思っていた。

問 9 (1) 東琴と東国の事(様子)

(2) 匡衡は、琴が弾けないということを、差し出された和琴が東琴とも呼ばれることから、「あづまのことも知られざりけり」と歌で答えた。この部分は、「東琴を弾けない」と「逢坂の関を越えたことがないから」東国のことを知らない」という掛詞になっており、女房達の意地悪な要求に対して気の利いた答えになっている。女房達にしてみれば、和歌で答えるという予想外に雅やかな応対に返歌を作ることができなかつたために、恥ずかしくなって逃げ出したのである。(和歌の内容が明らかになっており、歌による気の利いた返しだったということが答えられれば可)

問 10

(1) 匡衡の、希望していた任官がかなわず意気消沈している状況と、舟に乗って心が晴れた状況。
 (2) 川を舟に乗って進み、気持ち晴れ晴れとするときは、これが任官がかなわず失意にあった自分であるとは思えないことだ。

問 11

(返り点・送り仮名) 不^レ去^ラ則^チ甚^ダ害^シ田^ニ者^ヲ、去^レ之^{ルニハ}則^チ不^レ足^ラ以^テ徴^{スルニ}甲^ニ兵^ヲ
 (意味) ①

問 12

これを西門の外に移すことができた者がいれば、最初の時(車のながえを北門から南門に移させた時)と同じように褒美を与えよう。

問 13

(現代語訳) 人々は先を争って攻撃に参加した。そこでとりでを攻めて、朝のうちに攻め落とした。

(説明) 最初に車のながえを運ぶだけという簡単なことをするだけでも本当に莫大な褒美をもらえると知った人々が、大量の豆を運ぶという面倒な課題でも同じ褒美をもらうために先を争って行うようになっていたため、更に多くの褒美が示されたとりでの攻略には、たくさんの方が意気込んで参加したことによる。